

国際マネーフローレポート No.97

海外投資家による最近の本邦株式投資動向

【目次】

- I. 今月のトピックス
～海外投資家による最近の本邦株式投資動向
- II. 国際金融市場、国際マネーフローの動向
 1. 主要先進国の金利と為替相場
○政策金利 ○長期金利 ○金利差と為替相場
○実質実効為替相場 ○株価、実質 GDP 成長率、インフレ率
 2. 世界の流動性
○世界の外貨準備 ○世界の通貨当局の米国債・政府機関債投資残高
○主要先進国合計のマネーサプライ
 3. 中国とロシアの貿易収支
○中国の貿易収支 ○ロシアの貿易収支
 4. オフバランス取引での円ポジション
○シカゴ通貨先物市場での投機筋による円のネットポジション
 5. 日本をとりまく資本移動
○対外証券投資 ○対内証券投資
 6. 米国をとりまく証券投資
○対米・対外証券投資 ○海外資本の米国債保有残高
 7. 世界的不均衡
○米国の経常収支赤字 ○米国の貿易赤字 ○ドル相場
 8. アジアの株価・為替相場
○株価 ○為替相場

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

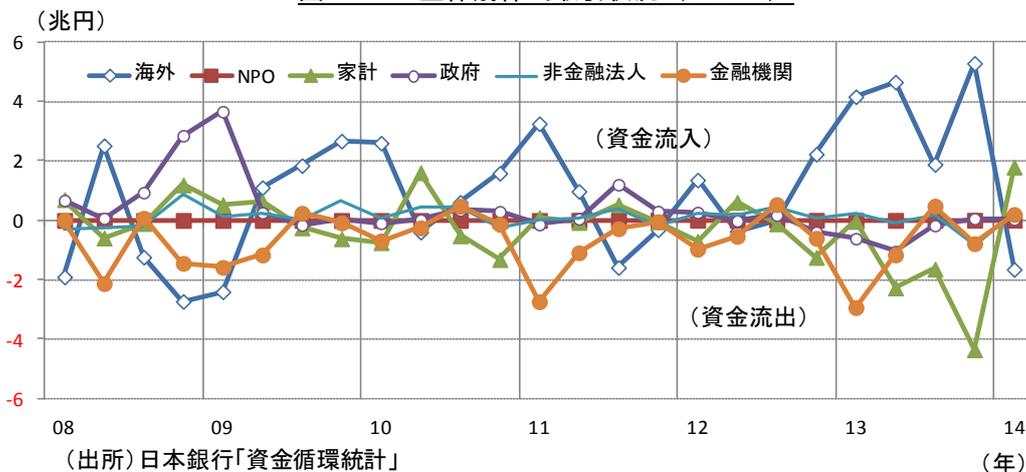
〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

TEL: 03-6733-1070

I. 今月のトピックス～海外投資家による最近の本邦株式投資動向

6月に日本銀行が発表した「資金循環統計」によると、2014年1-3月期に海外投資家は日本の株式投資をフローで1兆6,490億円減少させた。海外投資家が日本株を売り越したの、12年7-9月期以来であり6四半期ぶりのことである(図I-1)。12年末の安倍政権誕生以来、アベノミクスへの期待などから日本株を買い増してきた海外投資家であったが、14年1-3月期は日本株買いの動きが一服した。海外投資家が日本株を減らす一方、その受け皿となったのは国内家計部門であり、12年1-3月期は1兆7,944億円の買い越しとなり12年4-6月期以来7四半期ぶりにフローで増加した。

図I-1 主体別株式取引状況(フロー)



海外投資家による日本株の売り越しに伴って、株価も14年1-3月期は軟調に推移した。13年は海外投資家の買い越しが影響して、日経平均株価は13年初を100として年末に157まで上昇したが、14年に入ってからは一転、売り越しにより3月末には同143まで低下した(図I-2)。13年以降の主要国の株価動向を比較してみると、日本株は他国に比べて大幅に上昇してきたため、14年に入って、一旦利益の確定売りが出たものと考えられる。

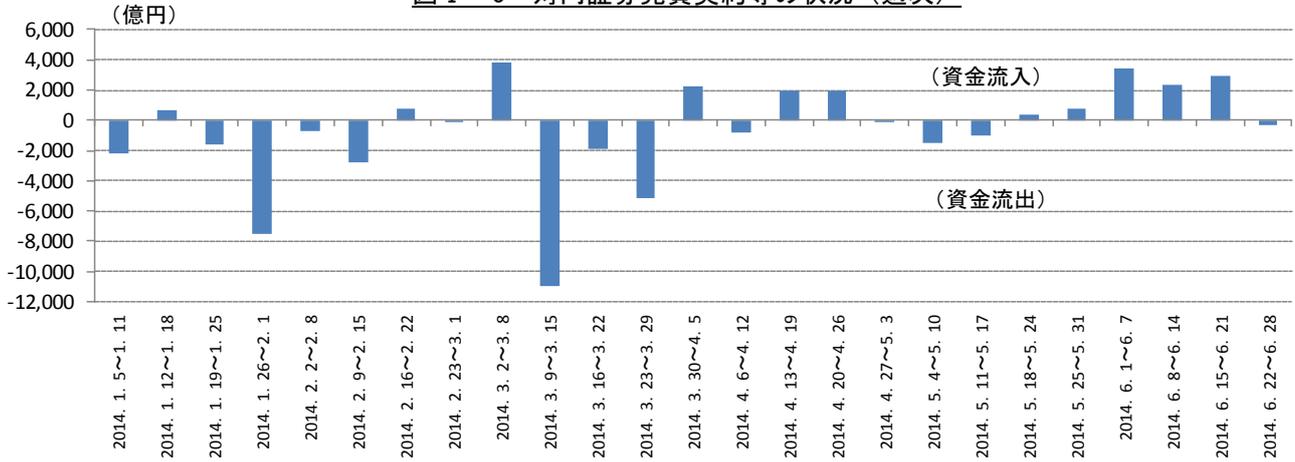
図I-2 主要国の株価動向(2013年初=100)



もっとも、4月以降の株価の推移をみると、日本株も4月から5月中旬までの軟調な展開を経て、5月中旬以降、再び値を戻す動きとなっている。財務省「対外及び対内証券売買契約等の状況」から非居

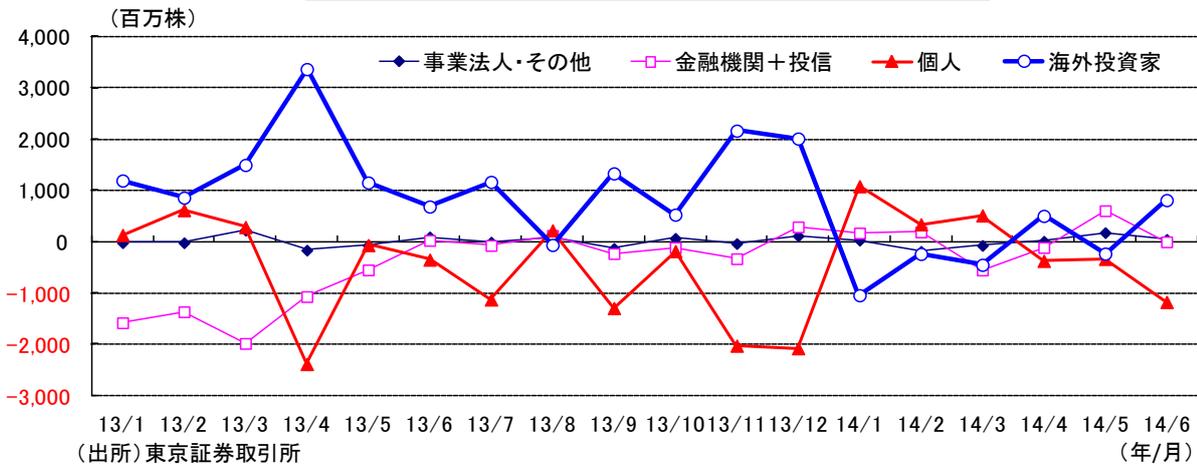
住者による本邦株式・投資ファンド持分の売買動向をみても、6月は買い越しの動きが優勢であった(図I-3)。また、東京証券取引所「投資部門別売買状況」をみても、海外投資家は6月に日本株を買い越している(図I-4)。日本株は、13年に急上昇したとはいえ、リーマン・ショック前の水準を基準に考えると、他の主要国に比べて戻りがずいぶん遅れている。この点を考えれば、まだ上昇の余地があるとの見方も可能であろう(図I-5)。

図I-3 対内証券売買契約等の状況(週次)



(出所)財務省「対外及び対内証券売買契約等の状況(週次・指定報告機関ベース)」

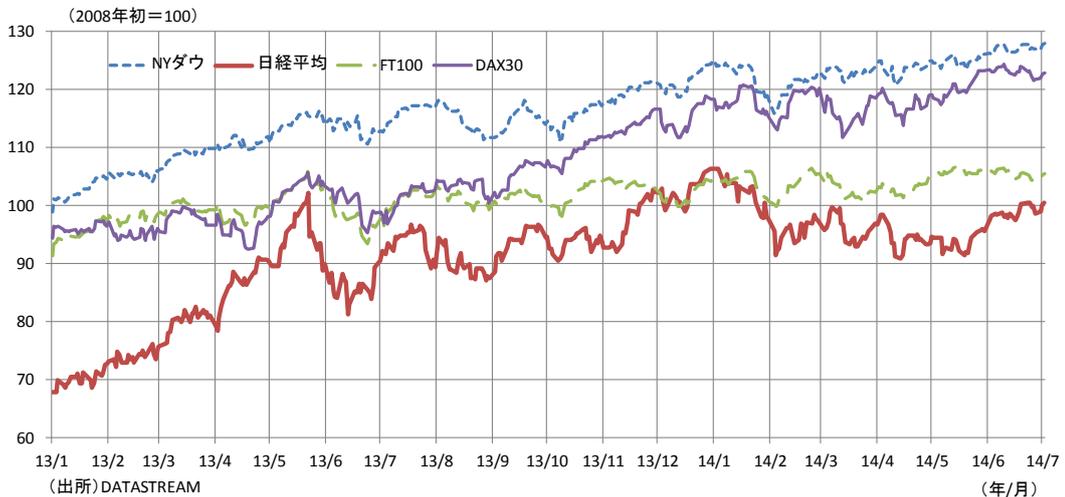
図I-4 投資部門別売買高(東証一部)~売り買い差引



(出所)東京証券取引所

(年/月)

図I-5 主要国の株価動向(2008年初=100)



(出所)DATASTREAM

(年/月)

II. 国際金融市場、国際マネーフローの動向

1. 主要先進国の金利と為替相場～FRBは資産購入額の減額を決定

○政策金利

◆ユーロ圏

・ECB（欧州中央銀行）は、7月3日の理事会で主要政策金利であるリファイナンス金利を0.15%に、中銀預金金利を-0.10%に、限界貸出金利を0.40%に据え置いた（図II-1）。

◆英国

・BOE（イングランド銀行）は、6月5日のMPC会合で政策金利を0.5%に据え置いた。また、資産買入プログラムの買入規模を3,750億ポンドに据え置いた。

◆米国

・FRB（連邦準備制度理事会）は6月18日のFOMCで、債券の買い入れ額を450億ドル（モゲージ担保債券200億ドル、国債250億ドル）から、350億ドル（それぞれ50億ドルずつ減額）に減額することを決定した。また、フェデラルファンド金利誘導目標水準を0～0.25%に据え置いた。

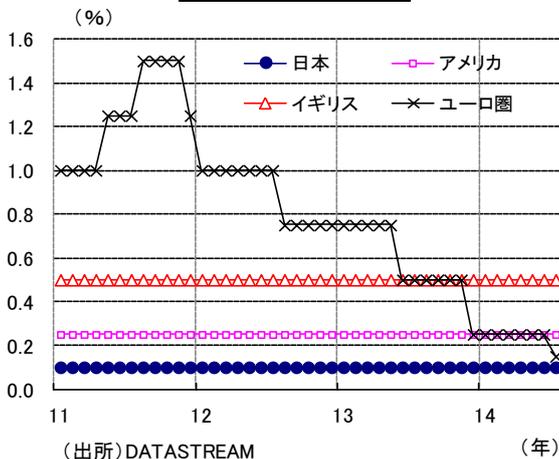
◆日本

・日本銀行は6月13日の金融政策決定会合で、「マネタリーベースが、年間約60～70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行う」現状の金融政策の維持を決定した。

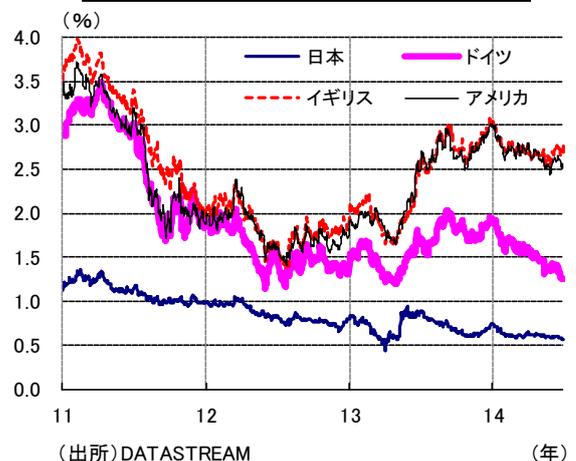
○長期金利（国債10年物利回り）

・6月の日、米、英、独の長期金利は、前半は良好な経済指標を受けて上昇したが、その後、地政学リスクの高まりなどを材料に低下した（図II-2）。

図II-1 政策金利



図II-2 長期金利（国債10年物）



○金利（3ヶ月物）差と為替相場

◆日本と米国

- ・短期金利（3ヶ月物）は、日本では6月に小幅低下、米国は小幅上昇し、金利差は小幅拡大した（図Ⅱ-3）。
- ・6月のドル円相場は一進一退で推移した。

◆日本とユーロ圏

- ・欧州の短期金利（3ヶ月物）は政策金利の引き下げを受けて6月に低下し、日欧の金利差は縮小した（図Ⅱ-4）。
- ・6月のユーロ円相場は一進一退で推移した。

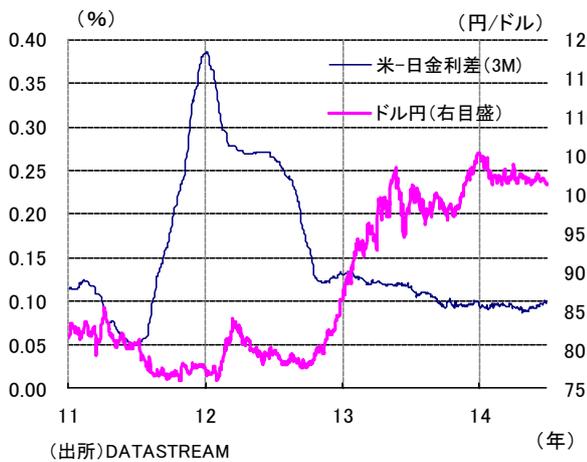
◆日本と英国

- ・6月ポンド金利は小幅上昇、日英の金利差は小幅拡大した（図Ⅱ-5）。
- ・6月のポンド円相場は小幅円安となった。

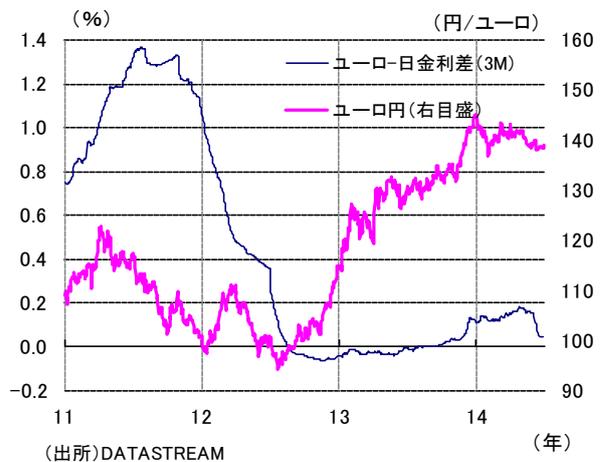
○実質実効為替相場

- ・6月の実質実効為替相場はドル、ポンドが上昇、円、ユーロが低下した（図Ⅱ-6）。

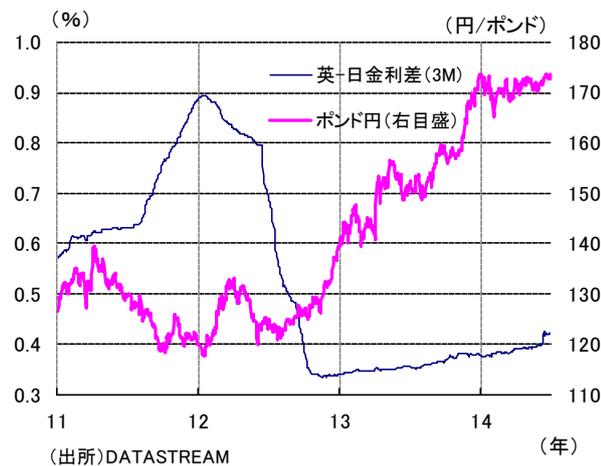
図Ⅱ-3 米-日金利差とドル円相場



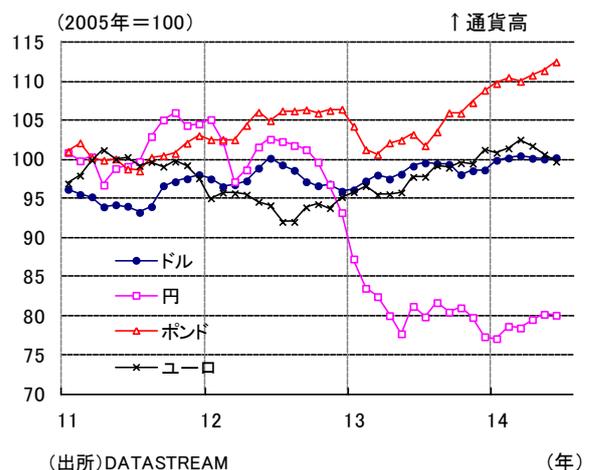
図Ⅱ-4 ユーロ-日金利差とユーロ円相場



図Ⅱ-5 英-日金利差とポンド円相場



図Ⅱ-6 実質実効為替相場



○金利やマネーの動きを左右する株価、景気、インフレ率

【株価】

・6月の主要国の株価は日、米が総じて堅調、独、英が軟調な展開となった(図II-7)。

【実質 GDP 成長率】

・日、英、ユーロ圏の1-3月期の実質 GDP 成長率は、前期比でプラス成長となった。日本の伸び率は消費税率引き上げ前の駆け込みもあって大きく拡大した(図II-8)。一方、同期の米国の成長率は、12四半期ぶりにマイナスとなった。

【消費者物価上昇率】

・5月の消費者物価指数(総合)は、日、米、英、ユーロで前年比プラスとなった。(図II-9)。ユーロでは6月も同プラスが続いているが、プラス幅は縮小傾向にある。

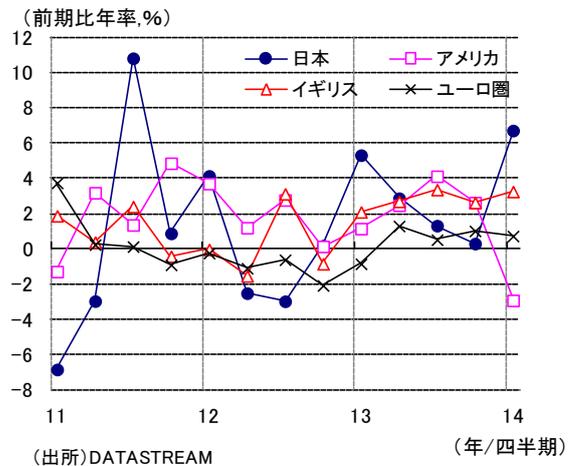
【原油価格】

・6月の原油相場(WTI、期近物)は、ウクライナ、リビア、イラン等地政学リスクへの懸念から上昇基調での推移となったが、下旬にはやや値を下げた。

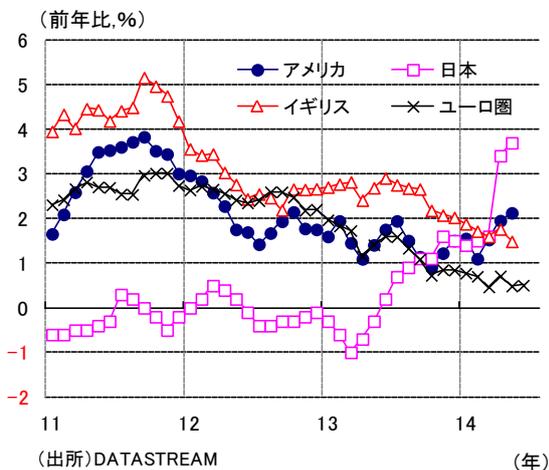
図II-7 株価



図II-8 実質 GDP 成長率



図II-9 消費者物価上昇率



図II-10 原油価格 (WTI)



2. 世界の流動性～世界の外貨準備は対前年比で増加

○世界の外貨準備（通貨当局が保有する対外資産）

・世界の外貨準備は前年比で見て増加が続いているが、伸び率は縮小してきている（図Ⅱ-11）。アジア諸国の外貨準備は、このところ概ね横ばい圏で推移しているが、中国が増加基調となっている（図Ⅱ-12）。

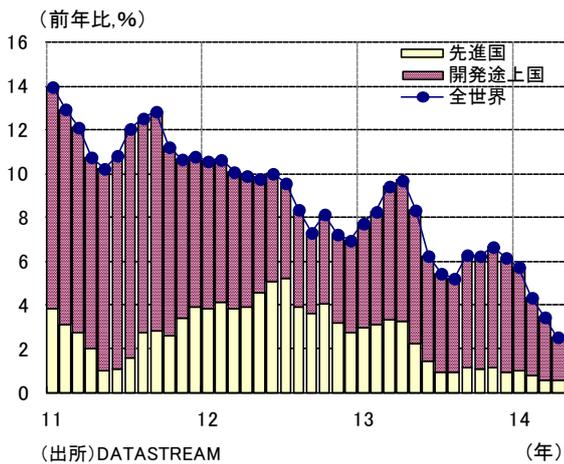
○世界の通貨当局の米国債・政府機関債投資残高

・5月の世界の通貨当局による米国債保有残高（FRB カストディ残高）は、前年比で-0.86%と2ヶ月ぶりに減少した（図Ⅱ-13）。

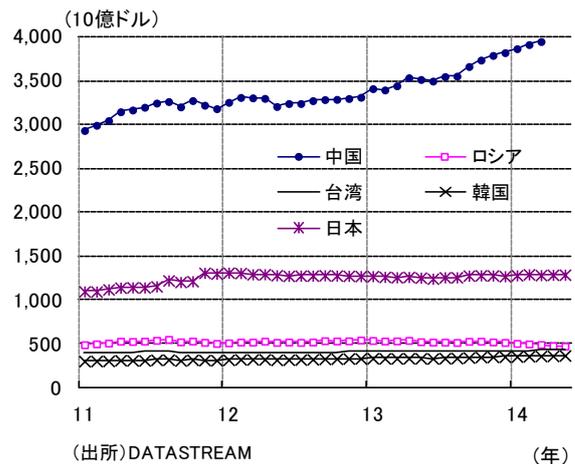
○主要先進国のマネーストック

・5月の日、米、ユーロのマネーストックは前年比で増加、英は減少となった（図Ⅱ-14）。日本は6月も前年比増となったが、伸び率は低下してきている。

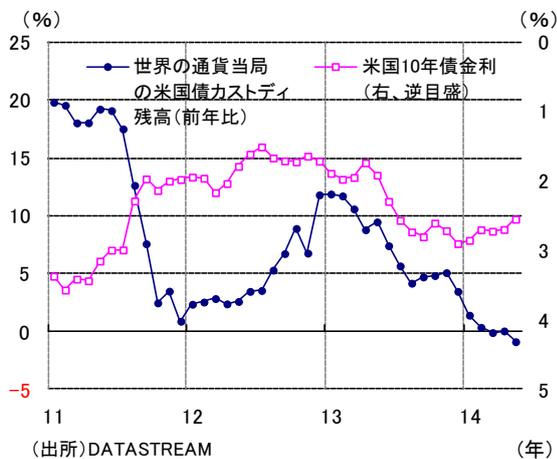
図Ⅱ-11 世界の外貨準備（伸び）



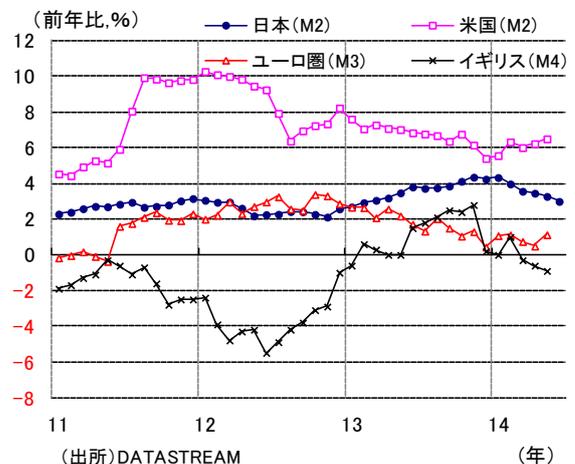
図Ⅱ-12 アジア諸国の外貨準備（水準）



図Ⅱ-13 通貨当局の対米投資と米国金利



図Ⅱ-14 先進国のマネーストックの伸び



3. 中国とロシアの貿易収支～5月の中国の貿易収支は359億ドルの黒字

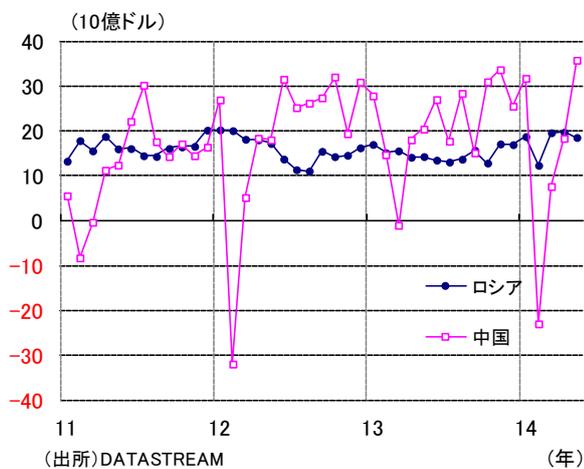
- ・5月の中国の貿易黒字は、前年比+74.9%の359億ドルとなった（図Ⅱ-15）。
- ・5月のロシアの貿易黒字は、前年比+29.7%の187億ドルであった。

4. オフバランス取引での円ポジション～シカゴでの円ポジションは売り超

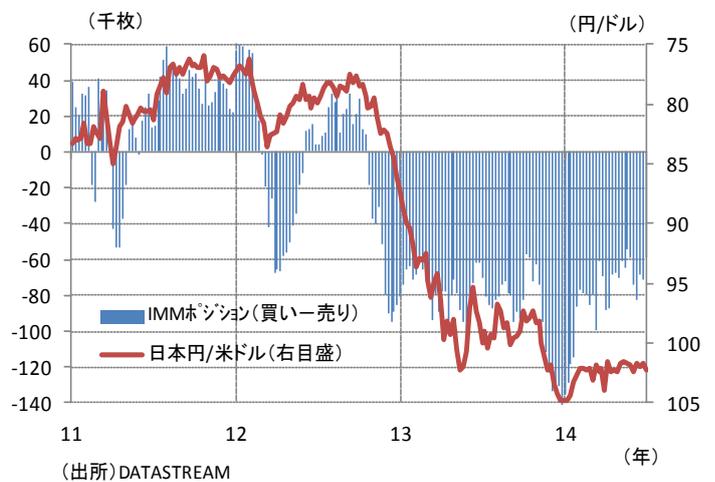
○シカゴ通貨先物市場での投機筋（非商業目的）による円のネットポジション

- ・シカゴ市場での円のネットポジションは2012年11月以降、売り超の状態が続いている。（図Ⅱ-16）。

図Ⅱ-15 中国・ロシアの貿易収支



図Ⅱ-16 シカゴ先物市場とドル円相場



5. 日本をとりまく資本移動～6月の対内証券投資は、流出超過

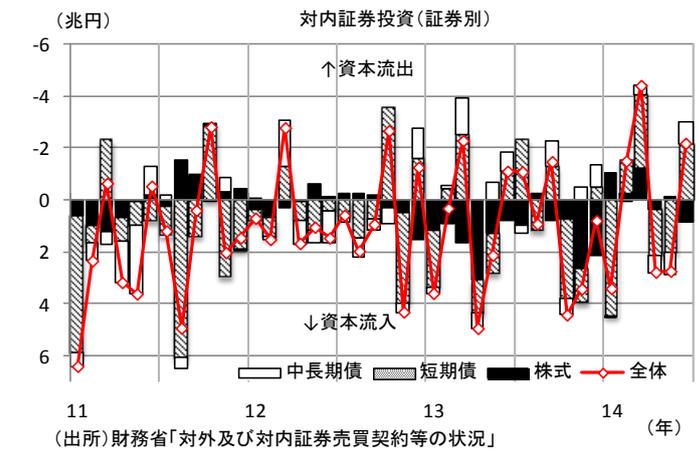
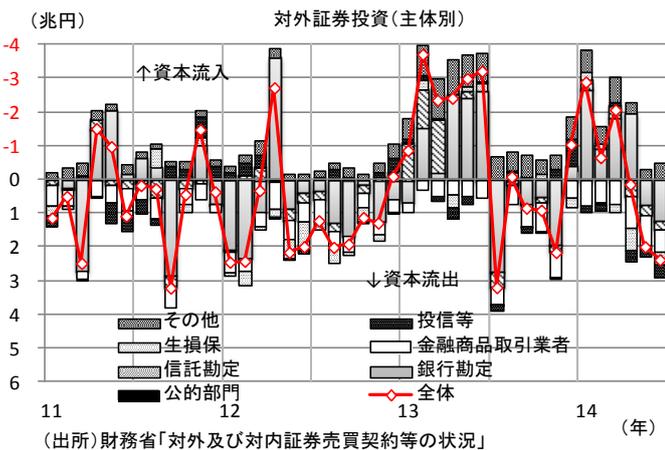
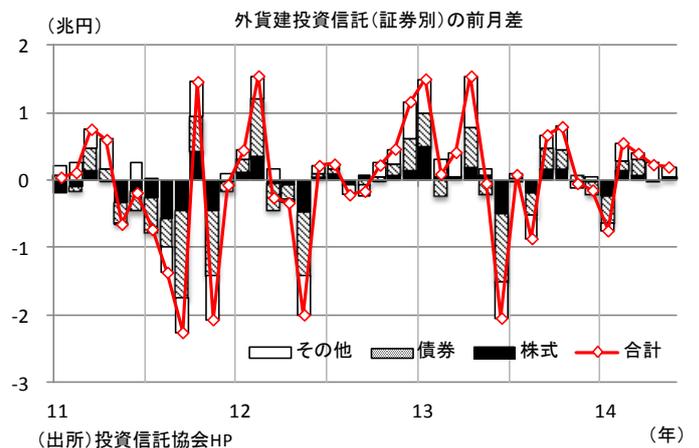
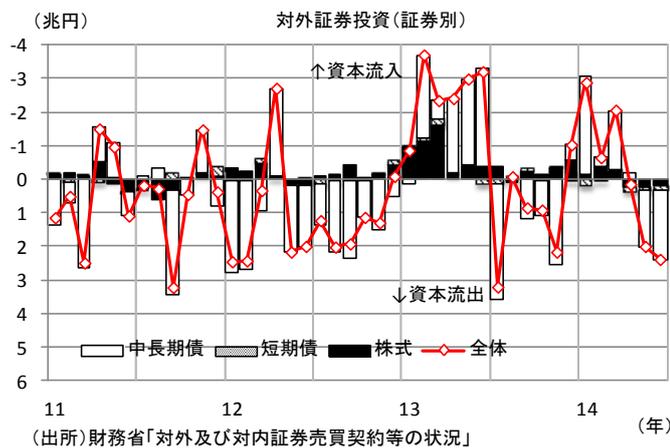
○日本の対外証券投資（日本人投資家の海外資産への投資）

- ・6月は2兆3,860億円の流出超過（買い越し）となった。中長期債、短期債、株式のいずれもが買い越されて国外に資金が流出した。
- ・5月の外貨建て投資信託残高は、債券型、株式型、その他型のいずれもが増加し、トータルで前月に比べ1,978億円の増加となった。

○日本への対内証券投資（外国人投資家による対日証券投資）

- ・6月は2兆1,906億円の流出超過（売り越し）となった。株式が買い越されたが、短期債、中長期債が売り越されて、資金が国外に流出した。

図Ⅱ-19 日本をとりまく証券投資



6. 米国をとりまく証券投資～4月は米国から資金流出

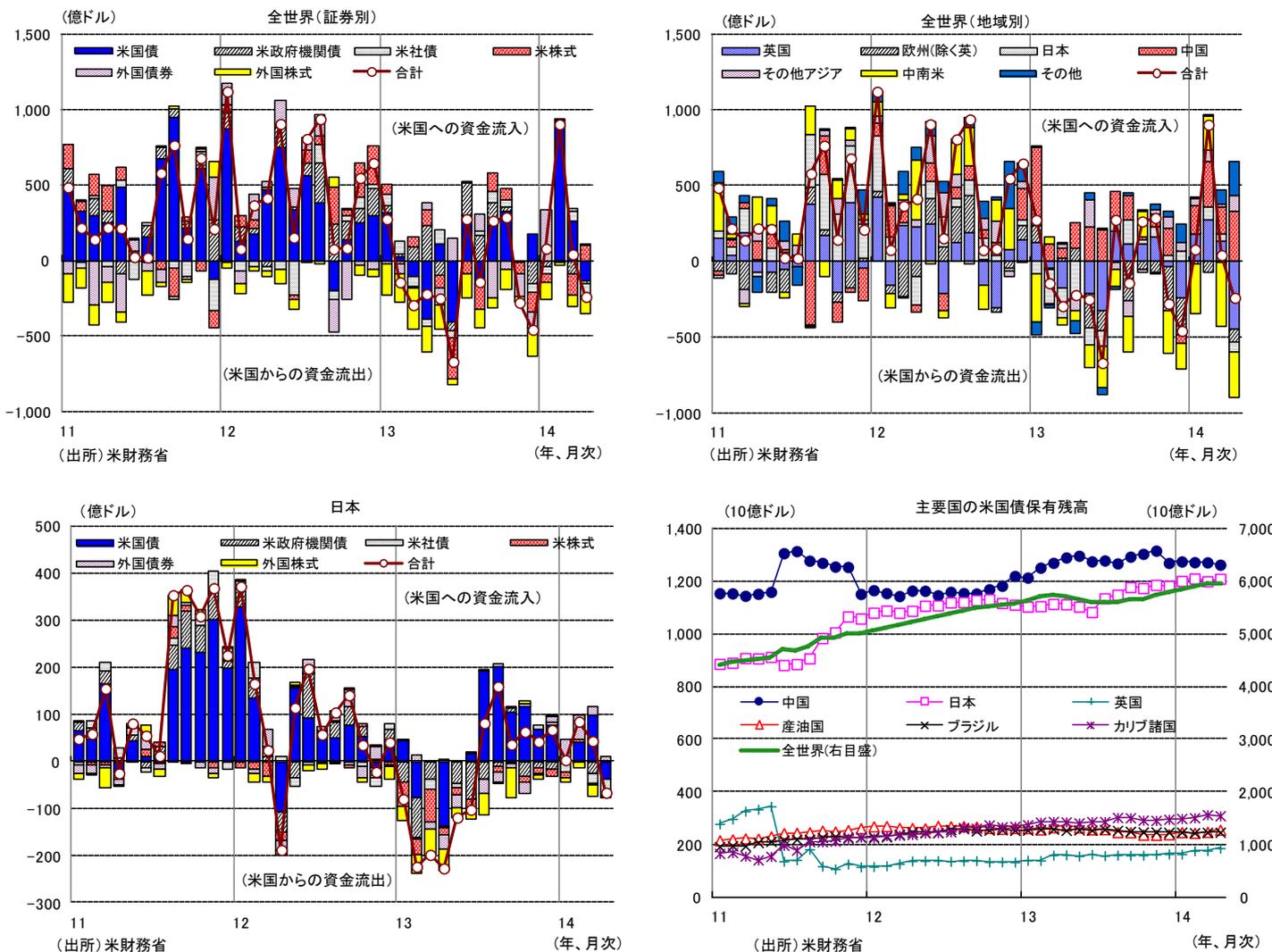
○対米・対外証券投資

- ・4月の海外資本による対米証券投資は、ネットで140億ドルの売り越しとなり資金が米国から流出した。米株式が買い越されたが、米国債、政府機関債、社債が売り越された。
- ・一方、米国資本は外国債券を売り越し、外国株式を買い越して、ネットで102億ドルの資金を流出させた。
- ・このため、4月は合計242億ドルの米国からの資金流出となった。

○海外資本の米国債保有残高（ストック）

- ・4月の海外資本による米国債保有残高は5兆9,609億ドルと前月比で増加した。
- ・ストック残高を国・地域別にみると、大きい順に、中国1兆2,632億ドル、日本1兆2,097億ドル、カリブ諸国3,084億ドル、石油輸出国2,555億ドル、ブラジル2,458億ドルとなっている。

図Ⅱ-20 対米・対外証券投資の動向



7. 世界的不均衡～米国の経常赤字（10-12月期）は前期比で拡大

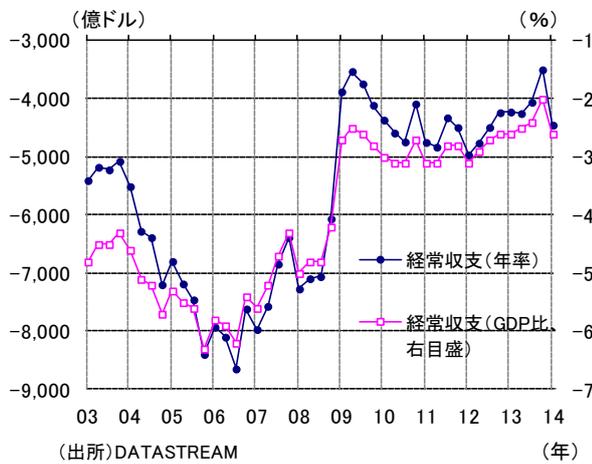
○米国の経常収支赤字（グローバルインバランス）

- ・2014年1-3月期の経常赤字は1,112億ドル（年率4,446億ドル、GDP比2.6%）と前期比で拡大した（図Ⅱ-21）。

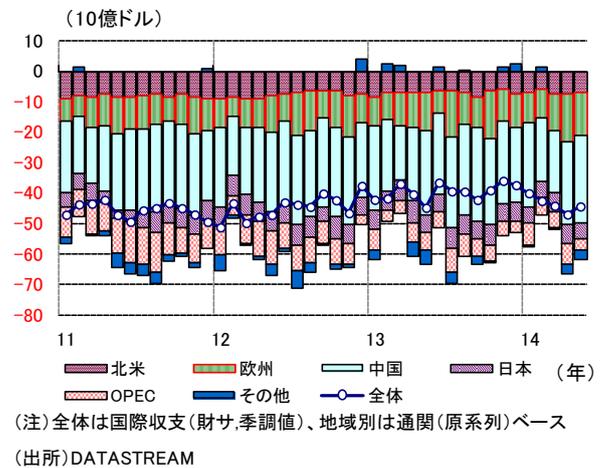
○米国の貿易赤字（国際収支・財サービスベース）

- ・2014年5月の貿易赤字は、444億ドル（季調値）と前月比で縮小した（図Ⅱ-22）。
- ・最大の赤字を計上している中国向けの貿易赤字は288億ドルと前年に比べて赤字幅が拡大した。

図Ⅱ-21 米国の経常収支



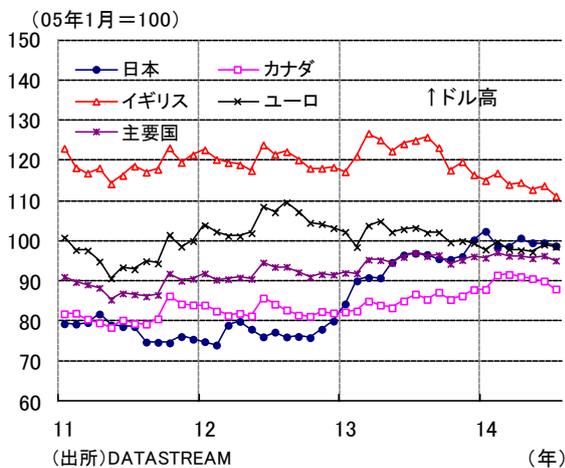
図Ⅱ-22 米国の貿易収支



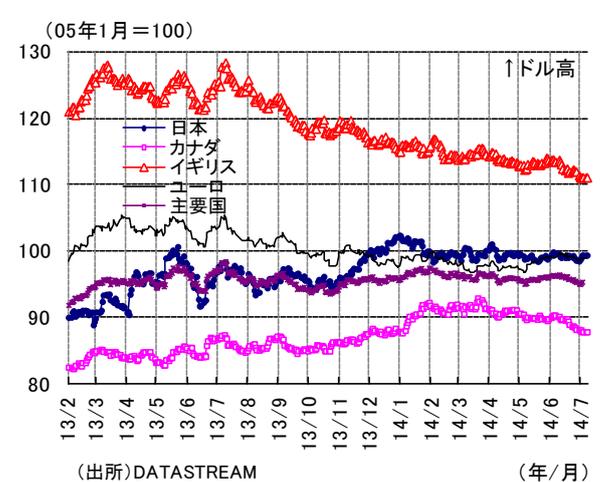
○ドル相場

- ・6月のドル相場は、対主要国でドル安基調で推移した（図Ⅱ-24）。

図Ⅱ-23 ドル相場（名目、月次）



図Ⅱ-24 ドル相場（名目、日次）

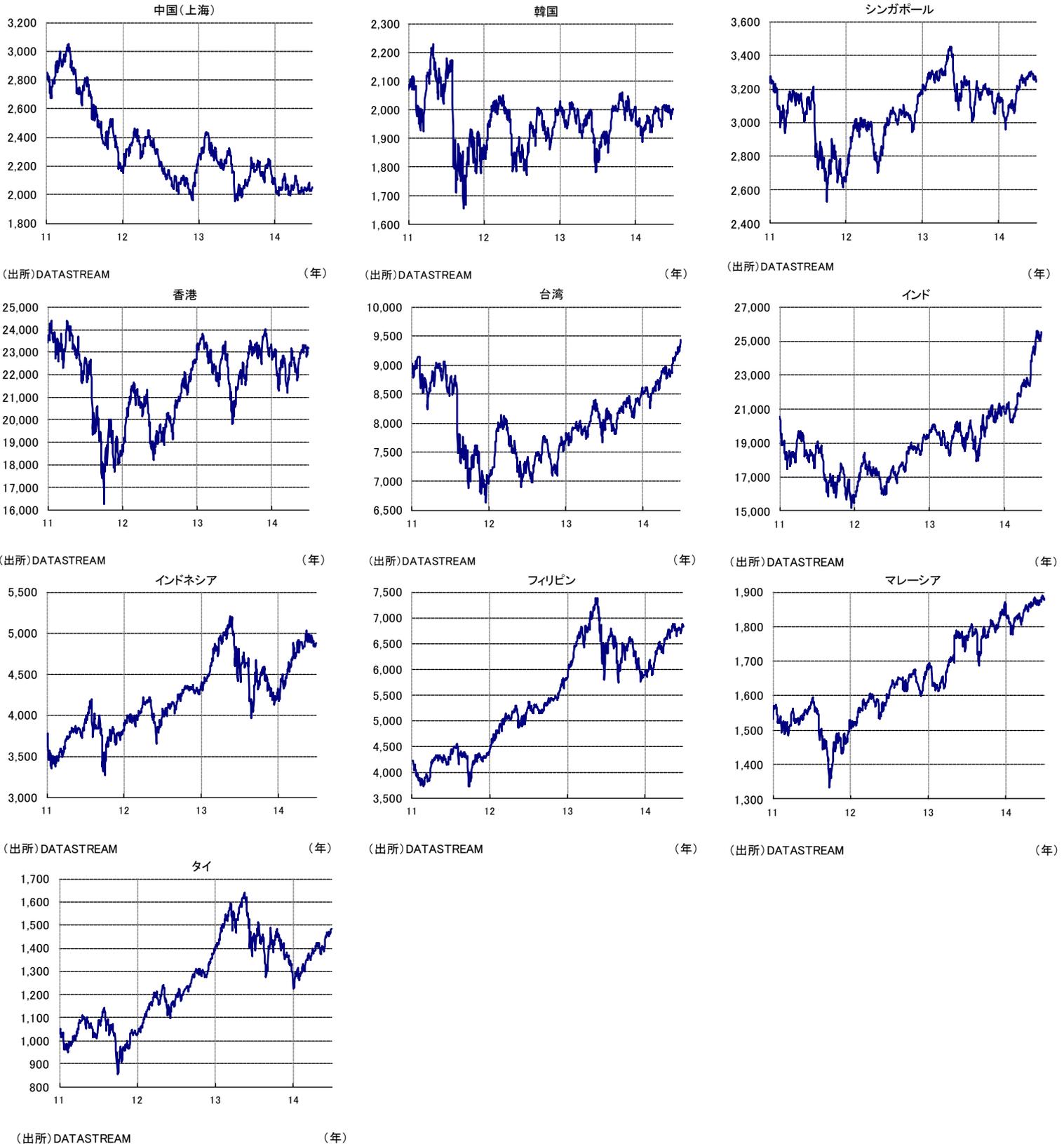


8. アジアの株価・為替相場～6月のアジア株はインド、台湾などが堅調に推移

○アジア主要国の株価

・6月のアジア株は、インド、台湾、タイ等が堅調、韓国、中国、インドネシア等は一進一退で推移した（図Ⅱ-25）。

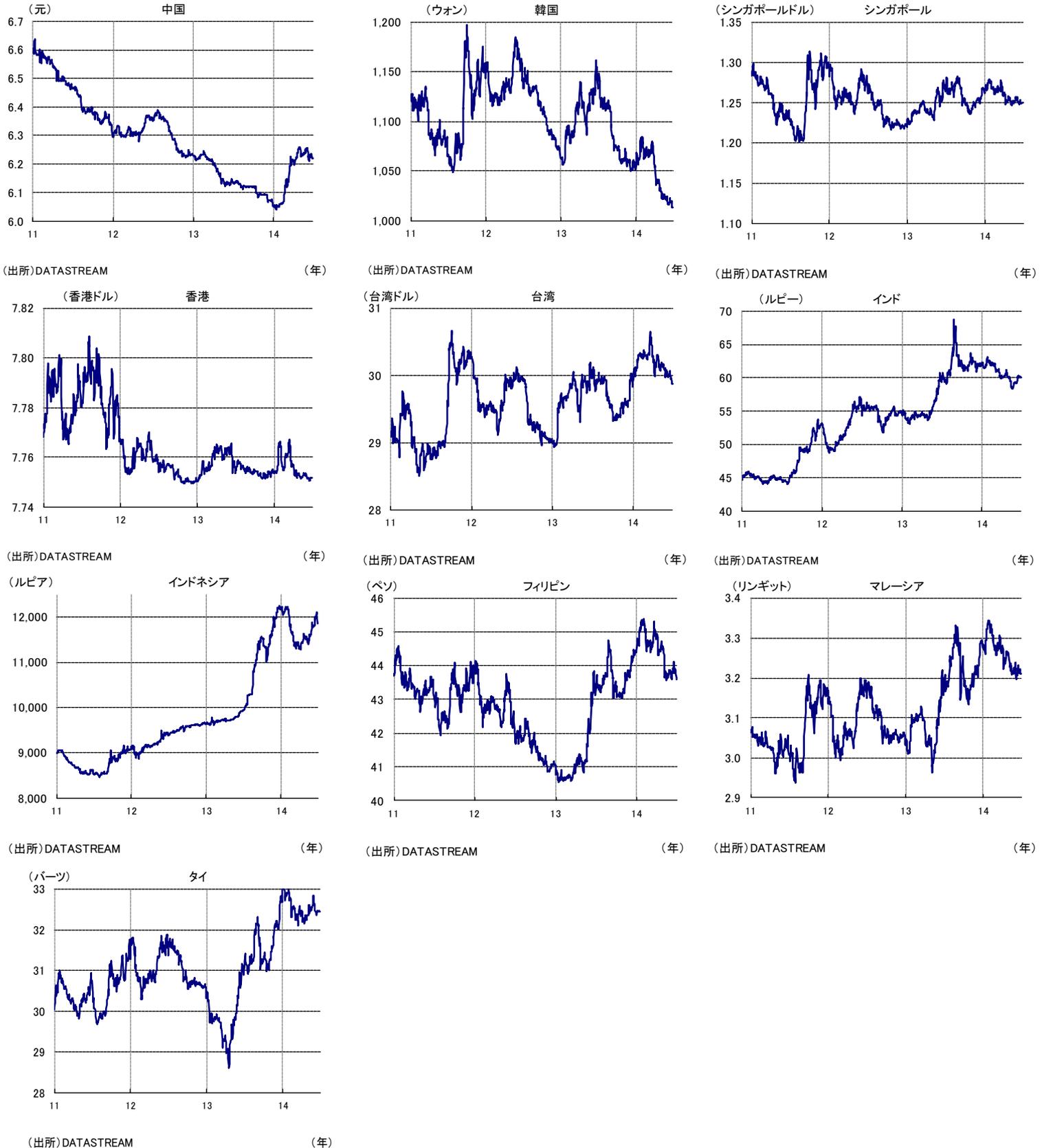
図Ⅱ-25 アジアの株価



○アジア主要国の為替相場

・6月のアジア通貨は、インドルピーやインドネシアルピアは通貨安基調となったが、
 その他は総じて通貨高基調で推移した（図Ⅱ-26）。

図Ⅱ-26 アジアの為替（対ドルレート）



－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。